

1期目の山口流 知事選2018

識者の見方

③

山口祥義知事は「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」「一人一人に敏感な県政」を掲げ、福祉分野の施策にも取り組んでいる。どうしても前知事の古川康氏と比較して見えてしまう。古川氏は福祉に明るく、高齢者や障害者に向けたさまざまな施策に力を注いでいた印象がある。山口氏は、率直な言い方をすれば、小規模な団体の集いにも頻りに顔を出した前知事より目立っていない。

滝口 真氏

西九州大健康福祉学部教授



たきぐち・まこと 1967年広島県生まれ。関西学院大学大学院博士後期課程社会福祉学単位取得。2009年から西九州大教授。現在、社会福祉学科長。専門は社会福祉学、ソーシャルワーク。51歳。

福祉の独白色 まだ見えぬ

い。県民の声を聞きながら、変わっていくのだと思う。

佐賀県は本年度、障害者差別解消推進条例を制定した。滝口教授も審議に出席した。

条例づくりで、山口知事の政治姿勢を垣間見た。

佐賀県は全国で条例制定が遅れ

ていたが、企業の障害者雇用の法定雇用率達成割合は全国トップ

で、実態として障害福祉が遅れているとは言えない。私はもっと条例の中身を練った方がいいのでは

とも思っていたが、知事は修正を

かけながらも早く制定したい考えだった。障害福祉分野に目を向

けて、少しでも早く条例をつくらうとした点は評価できる。

現場の声を軽視せず、条例に取り入れようとすると姿勢も感じた。本年度、ヘルプマークを導入した

ことも評価できる。

佐賀県の目玉事業でもある

「肥前さが幕末維新博覧会」は、

誰もが使いやすいように設計する

ユニバーサルデザインの視点から見ると、どう映るか。

メインナビゲーションは音声ガイド

に相当する文字情報が少なく、聴

覚障害者にとって情報保障が不十分だと感じている。設計、企画段

階から障害者の声を反映させる仕

組みをつくることを標準にしない

といけない。

福祉と一口に言っても、高齢者、障害者、貧困など多岐にわた

る。一方で、社会保障関連費は年々膨らむ。福祉施策の在り方が問

われてくる。

どの自治体でもそうだが、財源

には限りがある。大所高所から議

論をして、ニーズをくみ取りなが

ら、重点項目を打ち出してい

と思う。福祉の特定の分野で「先進

県といわれるようになればいい。

看護の人材育成に助成するなど、

力を注いでいる点は評価できる。

福祉分野の人材不足にも対応する

政策を進めてほしい。

弱者に光を当てることが政治の

本質。人は皆、老いるし、いずれ

何らかの形で福祉サービスを受け

ることになる。福祉分野で「山口

カラー」はまだ見えていないが、

1期目としては及第点だと思う。

(構成・山口貴由)

